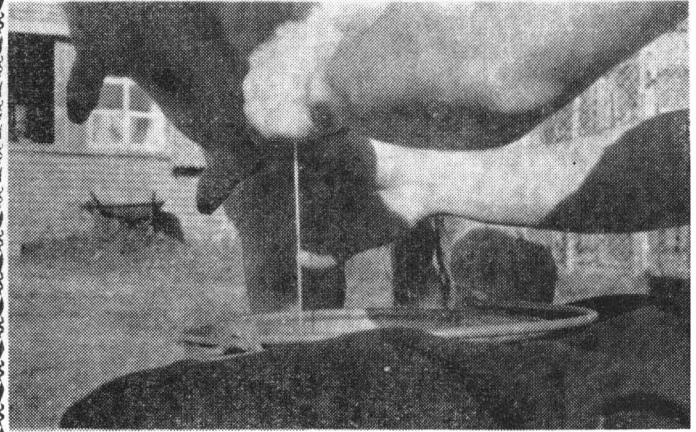


# 琉球大学学術リポジトリ

## 写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (4)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19922">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19922</a>



### 三、乳房炎の原因細菌について

乳房炎の原因細菌のおもなものといわれるレンサ球菌、ブドウ球菌を例にとつてみると、東京大学越智教授は次のように報じている。

レンサ球菌——乳房炎の原因細菌として最も重要であるが、本菌は健康牛の乳房からも発見される。健康牛、乳房炎牛の双方から検出されるこの菌は、質的な差異はなく、量的差異があるだけだと述べている。そして本症の人工感染試験は、特に本菌の場合乳房炎に大量菌を接種した場合はおおむね感染しているが、少量の場合は必ずしも容易でない。この事實は、本症の感染が単に菌だけの問題でなく、生体側の要因に関係のあることが少なくない、即ち自発性伝染病に属するものといつてゐる。従つて本症の今後の完全な究明には、生体側の要因について研究する事が最も重要である。

ブドウ球菌——健康牛の乳房内正常細菌群については、本菌が最も優勢で、本菌は乳頭から乳房

内に侵入し、そこで多少増殖しながら存在しているのだという。本菌の分布は非常に広く、人畜の病巣、健康な粘膜及び体表、あるいは自然界から検出されるが、乳房炎の原因細菌として重要なことは明らかである。

### 四、むずび

以上の研究成果から琉大の牛の乳房炎について考察してみると、発生の原因は一般農家の場合と同様、いわゆる粗暴搾乳法により乳房内の上皮細胞の脱落、白血球増の現象をきたし、そこに広く体外に常在しているという前記レンサ球菌、又ブドウ球菌その他が量的に大量侵入し、遂にその発生を見たもので、生体内に受入れ態勢ができていたという事である。琉大の場合、菌の検出はとうとうできなかつたが、体細胞(白血球、上皮細胞)は常に多数発見され、前記一の研究成果と符合する点の多かつたことを附言してむずびとしたい。

(宮 城 正 夫)

## 写真や図を中心にみる

# 琉球の農作物主要病害虫

(4)

## 病害

### ホウレンソウのべト病(露菌病)

宿主 ホウレンソウ

発生 二月から三月頃にかけてみられ、ホウレンソウの恐るべき病害である。

病徴 はじめ葉の表面に、黄色あるいは、蒼白色の周縁不明瞭の小斑を生じ、これはしだいにひろがつて不正形となり、被害大のときは全葉灰黄色となつて枯死乾燥する。

葉の裏面には、灰紫色あるいはネズミ色のカビを生ずる。

病原 担子梗は、気孔から一―数本出る。長さ二〇―五〇ミクロン。上部は三七回分岐する無色で隔膜がない。

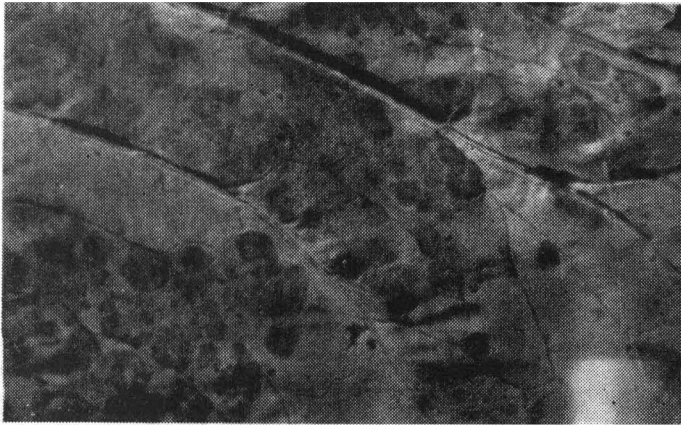
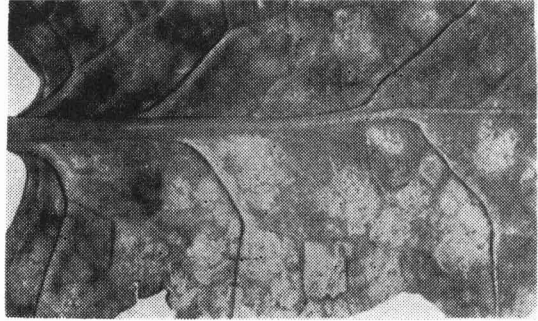
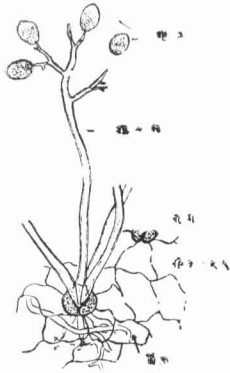
胞子は、広だ円形、あるいは、卵円形、灰色、長さ一六一三―一四一―二三ミクロン

### 防除

一、ダイセン三七グラム(一〇匁)を、水一八リットル(一斗)にうすめて散布する。

一、王銅三七グラムを、水一八リットルにうすめて散布する。

右、ホウレンソウのべト病の被害葉  
左、ホウレンソウのべト病菌



### カンランの黒はん病

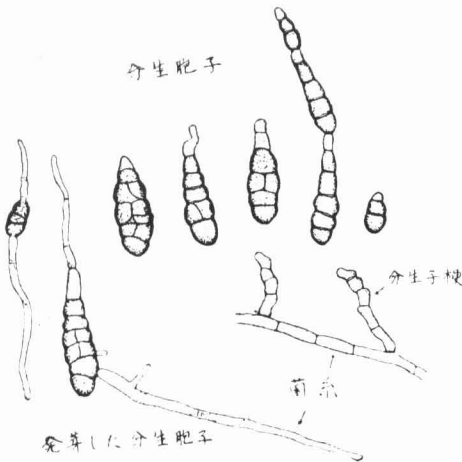
**宿主** カンラン、ハナヤサイ  
**発生** 琉球では、九月から翌年三月頃にかけてみられ、特に収穫期前頃からひどく発生する。  
**病徴** 主に老葉に発生し、病斑は大形で灰白色をなし、ふちはやや黒みがかり、輪かくははつきりしない。病斑のちに黒色スズカビ状のカビでおおわれる。

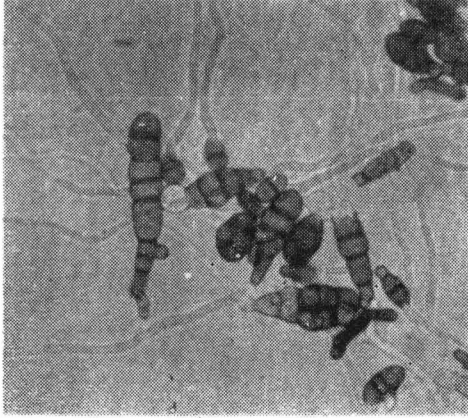
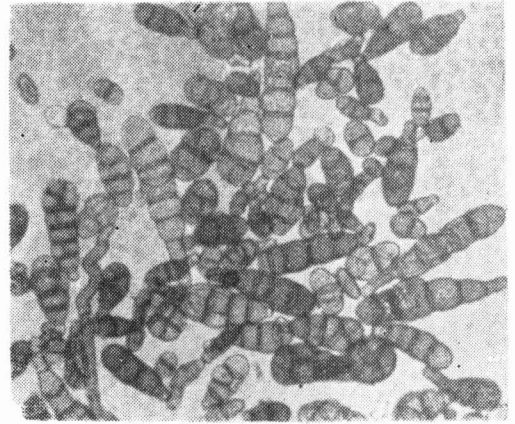
**病原** 分生子梗は単生又は叢生し、灰かつ色で、○1三つの隔膜を有する。その上に1-2個の分生子を連生する。

分生子は黄かつ色あるいは暗かつ色、頂端淡色、多数の横隔膜と少数の縦隔膜を有し、隔膜部で深くくびれ、長さ一五-一八、巾八一-一二ミクロン。

中、カンランの黒斑病の被害葉

下、カンランの黒斑病菌





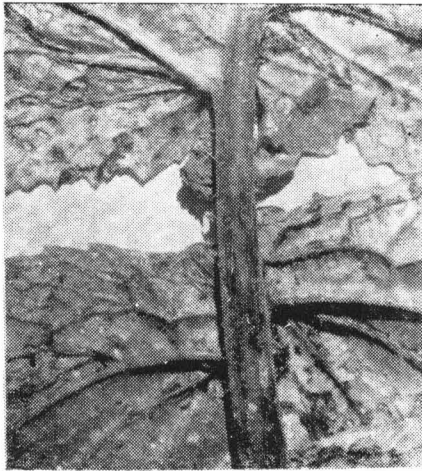
右、カンランの黒斑病菌顕微鏡写真(四〇〇倍)  
左、發芽したカンランの黒斑病菌同様に(四〇〇倍)

**防除**

- 一、種子は、水銀製剤一〇〇〇倍液に三〇分間浸ける。
- 二、肥料切れのしないように注意する。
- 三、被害葉は、集めて焼きすてる。
- 四、発病に先立ち、六斗式石灰ボルドー液を散布する。
- 五、ダイセン三七グラムを、一ハリツトルの水の中にかして散布する。
- 六、輪作すること。

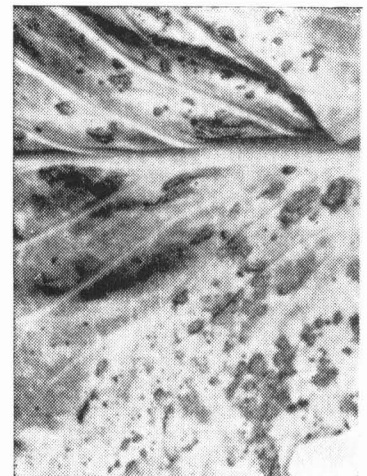
**ハクサイ黒はん性細菌病**

宿主 ハクサイ、ダイコン、カンラン、ハナヤサイ、カブ、ナタネ、タカナ、ミズナなど。



**発生**

二月から三月にかけてみられる。病徴 葉、莖、花、サヤに発生し、葉には、はじめ水浸状の斑点ができ、これはあとで不正円形、あるいは多角形となる。病斑は普通淡かつ色、時に黒かつ色、表面は脂様光沢を有する。



中、ハクサイ黒斑性細菌病の

大根被害葉

下、同カンラン被害葉

左、ハクサイ黒斑性細菌病

の病原細菌(中田)



**病菌**

短桿状、両端丸く、長さ一・三―三・〇、巾〇・七―〇・九ミクロン。菌体の一端に一―五本のペン毛を有する。発育の最適温度はセツ氏二五―二七度

**防除**

- 一、無病地に栽培し、また、二カ年輪作すると発病少ない。
- 一、種子を水銀製剤一〇〇〇倍液に三〇分間浸け消毒する。
- 一、キシジノミハムシなど本病菌の媒介昆虫を駆除する。
- 一、ダイセン三七グラム、又は王銅三〇グラムを水一ハリツトルにとかし、これに展着剤を加えて一週間おきに二―三回散布する。

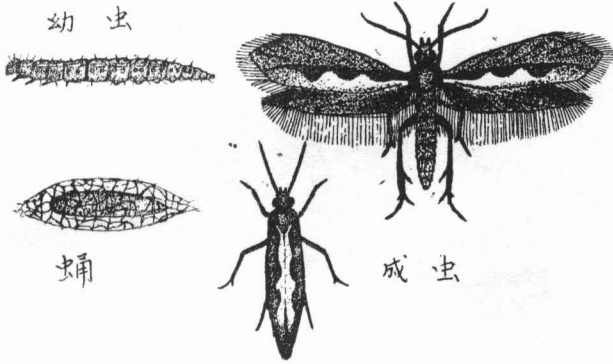
# 害虫

## コナガ

加害 幼虫はダイコン、ハクサイ、カンランなど  
アブラナ科作物を被害し、琉球では一月から  
五日頃までに多く発生する。



上、下、コナガの被害状態(カンラン)  
中、コナガ



昭和二十一年三月  
田盛正雄



### 防除

一、DDT乳剤又は水和剤の六〇〇―一八〇〇倍液  
を散布する。  
(コナガについてなお、くわしいことは農家便り  
一九五七年一月号の高良教授がお書きになつ  
たところを参照されたい。)

(田盛正雄)

発行所 琉球大学農家政工学部  
発行人 島袋俊一  
印刷 沖繩タイムス社

指令第一九八〇号

一九五九年二月二五日印刷  
一九五九年三月一日発行